

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100739		
法人名	社会福祉法人 溪仁会		
事業所名	グループホーム 西円山の丘 菜の花通り		
所在地	札幌市中央区円山西町4丁目3-21		
自己評価作成日	平成23年5月25日	評価結果市町村受理日	平成23年7月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170100739&SCD=320>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、「団らん」という理念のもとに利用者が望む自分のペースで穏やかに暮らせるように、又、思いやりの心を持って楽しい共同生活ができるように支援している。 2、利用者の高齢化に伴う容態の変化などに対応するために病院との連携は密にしている。札幌西円山病院とは連絡通路で繋がっており医療の対応は迅速にできている。 3、利用者の高齢化に伴うADLの低下もあり隣接している福祉施設より、リハビリスタッフの応援・協力体制も整っており1人1人に合わせたリハビリテーションを取り入れている。 4、地域の方々へダンボール堆肥をつくり使っていたり、グループホームを拠点として地域町内会の方と絵手紙・俳句等の作品を展示したり、町内小学校の生徒が利用者のために眼下にキャンドルロードを作ってくれるなど地域交流の機会を持っている。 5、四季を感じられる自然が目の前に広がっており、日課の中で職員を含め利用者同士でも節句を感じられる環境になっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年6月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

数多くの保健、医療、福祉事業を展開する法人が母体である当事業所では、各分野で蓄積されたノウハウを活かし、管理者及び職員は常に向上心を持ち、質の高いケアサービスの提供や事業所運営に取り組んでいる。個人面談や法人本部からのアンケート調査を行い、職員の意識の向上や働く意欲につなげる体制を整備している。利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを守り、できる限り本人のペースで過ごせるよう本人本位に検討し、その人の望む暮らしの支援に努めている。家族にアンケート調査を行い、事業所運営に活かす工夫もしている。また、事業所理念である「団らん」の実現に向け真摯に取り組んでいる。隣接する協力医療機関とは密接に連携を取り、何時でも適切な医療が受けられる体制であり、利用者、家族の医療面での安心を支えている。居室にトイレが設置されていることは、何時でも使用できる安心感と、排泄の自立支援につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者個人のペースやリズムに合わせ穏やかな「団らん」という共同生活を送ることを主とし、更に輪を広め地域の方々とも共有していく。	法人の運営理念の下、事業所独自の理念「団らん」の具現化に向け、会議で話し合ったり、個別にケア目標を立てるなどし、全職員で共有しながら日々の支援に取り組んでいる。各ユニットのエレベーター前に理念を掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭りへの参加やクリスマスには町内会の子供たちが作成したキャンドルをグループホームの敷地内に点灯する等季節の行事を通して交流を図っている。	地域住民と日常的に交流することが困難な立地環境であるが、町内会の盆踊りへ出かけたり、定期的なボランティアの訪問や、町内の花壇づくりへの協力などを行いながら、地域の中で孤立しない支援に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会へ向けたダンボール堆肥作りの実施・提供を行い、町内の花壇作りに役立てていただき外出時の沿道にはチューリップなど見て楽しむことが出来る。利用者や町内の方々で作成した作品の展示会開催への案内を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には参加メンバーとして、町内会の副会長・民生委員・地域包括支援センター職員・ご家族・当職員が参加し、2ヶ月に1度行われている。行事企画へのご家族の希望を取り入れたり、事故報告や対応の説明、事業所に対する要望等を聞かせて頂き、検討した上で実際のサービスに反映させている。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。会議では、事業所の活動内容や事故報告、家族アンケートの集計結果報告などを行い、意見交換し、そこで出された意見、要望などをサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険に関する相談や書類上の確認などは管理者が行っている。	市の担当部署とは、利用者の処遇に関する事案、各種必要な資料、情報を交換し、助言や指示を仰ぎながら連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。職員は研修を年間予定に組み込み身体拘束は行わないという基本的なケアは職員間に浸透している。玄関の施錠に関しては防犯上、外からは自由に入ることには出来ないが、中からは自由に出て行くことが出来る様になっている。	身体拘束の禁止対象となる行為について全職員が正しい知識を有し、拘束のないケアに取り組んでいる。何気ない対応が不適切と思われた場合は、その都度、話し合いや確認をしながら職員間の共通認識を図っている。年1回の内部研修や、他の研修にも希望者を募り、参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を年間研修予定に組み込み学ぶ機会を設けている。虐待に繋がる危険性のある不適切なケアについても職員間で注意し合い予防に努めている		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人で学んでいるスタッフはいるが、現在対象者がいないためフロアとして学ぶ機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居に関しては管理者が説明し理解・納得を得られるように対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望に関しては日常生活の中で各職員がその都度話を聞き必要なケアへと繋げている。家族へは面会の機会を利用する他、意見箱を設置したりアンケートを年1回実施し意見や要望に対応出来る様に努めている。	職員は利用者や家族の意見、要望を日常的に汲み取る努力をしている。また、事業所独自のアンケートを実施し、家族の意見や満足度などを把握してサービス向上に活かしている。運営推進会議でも、参加家族との意見交換を積極的に行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別面談を年3回予定し、月1回全体が集まる会議を実施している。又、法人としてのアンケート等の実施により職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	個人面談を実施し、意見や要望、提案、不満等を受け止めながら、職員が向上心や働く意欲を持てるよう取り組んでいる。職員が日常的にフロア一長やホーム長と話しやすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績・勤務状況の把握に努めている。毎年のベースアップ及び資格取得に応じた手当など支給している。又、リフレッシュ休暇として有休休暇の積極的な取得も働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では月1回の内部研修を行い、スキルアップを図っている。他事業所の研修予定案内もあわせてすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実務者研修の受け入れや近隣の法人との合同研修会を開催し交流を図っている。内部研修へ法人内の他事業所へ研修案内を出し、参加してもらう機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	書面の情報だけでなく、実際に本人の声に耳を傾け安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や思いに耳を傾け、お互いに信頼し合えるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所では対応できる事に関しては迅速にサービスが受けられるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	隣に座って会話をする等、同じ目線で同じ時間を共有し、お互いに笑って過ごせるような関係作りを心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便りにて日常生活の様子を伝えるほか、出来るだけ多くの時間を一緒に過ごして頂くように様々な行事への参加を促し、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの喫茶店やスーパーへ足を運んだり、家族や友人が面会しやすい関わり方ができるような環境づくりに努めている。	馴染みの美容室へ家族と出かけたり、以前勤めていた職場の同僚が来訪しやすい環境づくり、何時も食べ慣れたフードコートへ出かけるなど、本人がこれまで大切にしてきた生活上の関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニケーションが円滑に図れるように必要時には橋渡しを行い、誤解を招いた際には両者に理解して頂けるようにフォローを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取り、本人の状態把握を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には利用者・家族からの聞き取りはもちろん過去の環境も把握できるように他施設へ情報を確認したりしている。生活の中では小さなことも記録に載せ、その人が言葉にしたことも情報として把握し、居室担当が中心になって暮らしやすい環境づくりをしている。	利用者の過去の生活歴を理解した上、家族からの情報も得ながら、利用者の自己決定、自己選択の機会を設け、できる限り本人の思いに近づくよう検討している。意思表示が困難な利用者は、日常生活での表情や仕草などから思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や日々の関わりの中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やユニット会議などで現状の把握と対応を検討し職員間で同じ情報が共有出来る様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは3ヶ月毎に行っており、職員は利用者とはゆっくり面談し個別の満足度をくみ取りケアに反映させている。職員全員が担当を持ち、日々の生活や記録、面会時等でのご家族からの意向を踏まえ、計画作成担当者と協力してプランを作成している。	介護計画は、毎月会議で利用者の状況に沿っているか意見交換や確認をし、常に変化を捉え現状に即した計画変更や見直しを行っている。本人、家族の意向や医療面も総合して、利用者の生活を支える具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録だけではなくスタッフ間の連絡ノートを活用している。変化や気づき等をユニット会議にて検討しケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族と相談し、リハビリが必要な時はOTに診て頂き本人に合った福祉用具の検討を行う等、必要な支援が行えるように出来る限りの柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる演芸等、楽しめる時間を提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向で主治医を決定し、利用者の状況に合わせた専門医の受診にも対応できるようにしている。札幌西円山病院以外の受診時はご家族の同行が主体だが、希望があれば職員も付き添っている。	利用者の多くは事業所連携の医療機関がかかりつけ医となっているが、本人、家族の希望により、以前受診していた専門医を受診する利用者もいる。協力医療機関と連携しながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師の出勤時に情報提供を行い、対応の検討や指示を仰いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携により情報の交換を行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合については説明しているが、終末期のあり方については容態が変化したときにご家族に説明・話し合いをしている。看取りに関してのマニュアルはなく、研修も行っていない。	利用契約時に、利用者、家族に重度化や終末期ケアに向けたあり方、及び事業所のできる対応について説明しているが、対応指針の書面整備は重度化した場合のみで、終末期に向けた明確な取り決めや書面の整備には至っていない。また、個々の職員に終末期ケアの意欲はあるが、事業所全体での話し合いは持たれていない。	今後は、利用者の重度化や、介護度の変更が考えられるので、重度化、終末期支援のあり方について、職員間で話し合い、意識統一を図ることが期待される。事業所の支援内容を具体的に示した指針書、同意書を整備し、利用者、家族の意向を段階的に確認しつつ、望む支援の体制づくりに取り組む事を期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	比較的頻度の高い転倒や体調不良に関しては応急手当や初期対応の実践力を身に付けている。緊急時のマニュアルに従い、スタッフ間で連携を図り、対応しているが、定期的な訓練は行えていない。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回、日中・夜間想定を利用者と職員が参加しシュミレーションを行っている。夜間は隣接施設より応援体制が整っている。地震に関しては行っていない。災害時はマニュアルを作成し年1回説明・周知している。中途新入職員に対してはオリエンテーションの中で説明している。	年2回消防署立会いの下、昼夜想定避難訓練を実施しているが、地域からの協力が得られる体制を築くまでには至っていない。また、他の災害を想定した自主的訓練なども行っていない。災害時マニュアルや職員連絡網は整備している。	地域住民との関わりが希薄であるので、運営推進会議などを活用し、事業所の災害時対策に関する理解を求め、協力が得られるような積極的働きかけが期待される。訓練実施内容を知る資料の作成も期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導時や入浴時など声掛けや環境に気を配っている。入浴時など同性介助を希望される場合には配慮している。	共に過ごす時間を大切に、親しみはあるが馴れ合いにならないよう心がけている。態度や言葉遣いを意識して、プライドやプライバシーを損わないケアの実践に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の認知症状に合わせた働きかけをし、選択肢が持てる声掛けを行い自己決定の尊重に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく個々の希望に添えるように職員間で連携を図り臨機応変な対応を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人のお洒落に対する意識を尊重し、希望があれば毛染めも職員が対応している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好みの献立を取り入れたり、お鮎などの出前もとったりしている。日々の食事準備や後片付け・得意な料理を作ってもらったりと役割を持って参加している。	食事は利用者の希望を取り入れた献立や外食、行事食を提供している。利用者の意向を聞き、身体状況に合わせた食事の準備や後片付けを職員と共に行っている。おやつも楽しい時間の一つとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の摂取状況を把握し、食事量や水分量が少ない時には補助食品等を勧め、一定の量や栄養バランスが保てるように支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の身体状況に合わせて声掛けや見守り、必要な方には介助し毎食後に実施している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自室にトイレが設置されているためトイレでの排泄を進め、個々の排泄パターンを把握し、声掛けやプライバシーの保護にも気を配っている。においももらさない様に十分に換気している。	居室に備え付けのトイレは、利用者の安心感や羞恥心に配慮し、排泄の自立支援継続につながっている。個々の排泄パターンを把握、記録し、情報を共有して、適宜な声かけや誘導によるオムツに頼らない排泄支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便間隔を把握し、乳製品の摂取や適度な運動を促し予防に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同姓介助が希望の場合は個別に応じている。入浴に拒否のある方には無理には誘わず、本人とご家族とも相談しながら対応している。入浴されないときには足浴や全身清拭などで対応し清潔を保っている。又順番にこだわる方にはなるべく希望に沿えるように調整している。	週2~3回の入浴を目標に支援している。入浴の曜日や、順番、時間を固定せず、本人のペースや入浴の仕方を大切にしながら、気持ちよく入浴できる支援に努めている。希望に応じ毎日入浴できる体制である。入浴を拒否する利用者には足浴や清拭を行い、清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	プライベート空間が保たれている為、個々の体調に合わせた休息時間の確保は出来ている。夜間、眠れない時には温かい飲み物を勧める、話を聞く等、本人の状態に合わせた対応を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の疾患の把握すると共にDrの指示や看護師からの情報、処方箋に基づき薬について理解している。確実に服薬出来る様、薬袋に色わけしたラインを引く等の対応を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や体調に合わせた活動への参加を声掛けしている。年中行事や個人の記念事などは全入居者でお祝いするようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には隣接する病院の売店や外のスーパーへ行き個別に嗜好品を購入している。花の水遣りや観賞も散歩がてらできるようにしている。又、行事ではお花見ドライブや動物園見学など行っている。	年間行事計画を立て、花見、ドライブ、動物園見学へ出かけたり、買い物や外食など、家族の協力も得ながら個々の希望に沿った外出支援に努めている。職員と2人で小樽まで行った利用者もいる。	事業所の立地環境を考慮した上、利用者の日常生活が閉鎖的にならないよう、また、五感刺激を得られる貴重なチャンスとし、利用者、家族の希望や提案の汲み取りを細やかに言い、外出する機会を多く取り入れた支援が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は職員が行っている。買い物の際の支払い時は状況に合わせ本人に行って頂けるように声掛けしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話を設置しており、本人の希望に応じた対応を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常的には廊下に1人の空間が確保されるような陽の当たる場所に椅子を設置したり、リビングでは広い空間を利用し明るい雰囲気づくりをしている。利用者にあわせた使いやすいレイアウトにし、EVの待ち時間への椅子の配置・季節に合わせた飾りを展示したりと工夫している。	共用空間は全体的に広く、開放感のある空間になっており、居間の広い窓から見える眺望は四季の移ろいを豊かに体感することができる。ユニットごとに家具などを色分けし、特色を出している。利用者一人ひとりが適度な距離感を保ちながら、思い思いに過ごせる場を確保し、落ち着いた環境の下、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子とテーブルを設置し、一人で休んだり入居者同士で会話の場所として使用出来る様になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、タンスやサイドボードなど馴染みの家具や生活用品が使用されている。自分の作品を展示したり、ご家族の写真を飾るなどその人が好むような居室づくりをしている。	車椅子操作に十分な広さの居室には、利用者の馴染みの家具や調度品、趣味の用品などを持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、備え付けのトイレがあることで、夜間すぐ利用でき、利用者の安心につながっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事に目を向け伸ばしていける様に、個々の状態に合わせた環境整備や安全確保に努めている。		